



第21回 2013おきなわマラソン

第18航空団広報局

第21回2013おきなわマラソンが、2月17日に開催されました。フルマラソンには、11612人が出場し、約10000人以上のランナーが嘉手納基地のコースを通過しました。基地内では、応援所と給水所がそれぞれ2箇所に設けられ、さらに第18施設群と第353レットドホース中隊も自分たちの部隊の隊員による応援所を設置し、応援を盛り上げてくれました。



(写真左: 米空軍: ダーナル・ケネディ二等軍曹撮影)



レッドホース部隊はその部隊マスコットである「赤い馬」の像がランナー達を迎えていました。天候にも恵まれ、嘉手納基地内でもこれまで最多の500人以上のボランティアがくりだし、熱狂的に支援する様子が見られました。また小さな子供のいる家族はピクニック気分でテント持参で遊びながら、3時間余りの応援を楽しんでいました。応援のメッセージを書いたボードを掲げたり、「You can do it」や日本語で「ガンバレ~」などの熱い声援を送りました。沿道で応援していた在るボランティアが言うには、日本の漫画に「ガンバレー」という言葉が良く出てくるそうで「実際に使うのは初めて！」と、喜んで声援を送っていました。

(次ページへ続く)

SKOSHI KADENA FEBRUARY 2013



PART I

第21回 2013おきなわマラソン

太平洋空軍音楽バンド「パシフィック・トレنز」来沖！

航空自衛隊と空軍隊員、日米相互理解と親善に貢献

PART II

嘉手納外語塾生、ツアコン体験

アンダーソン広報局長、嘉手納外語塾生へ「成功への鍵」を講話

沖縄市の専門学校生、嘉手納基地で英語を学ぶ

National Honor Society (NHS)

F-22 機、嘉手納基地に再飛来

2月の視察団体の紹介

(前ページより続き)

基地内の交通整理は基地内憲兵隊が担当しました。第18憲兵中隊の約80人の隊員が交通規制を行い、基地内のメイン通り4車線の車両を午前8時半から午後2時半までシャットアウトして、走る人、見る人の安全を確保しました。第18部隊支援中隊は、例年通り独自の予算を捻出して、テント、簡易椅子、テーブル、ゴルフカートを提供しました。第5ゲートでは、給水所を設置できるよう特別にゲートを開け、嘉手納町より約100名のボランティアが応援していました。

開会式を終え、當山宏嘉手納町長も応援に駆けつけました。あきなわマラソン実行委員会の石原昌尚事務局長は「あきなわマラソンは日本陸連公認コースとしては日本国内で唯一米軍基地をコースに取り入れた大会となっており、その点があきなわマラソンの魅力の一つになってあります。基地での熱い応援はランナーにとって大変励みになっており、“基地内の声援はテンションが高くて、本当に元気になれる”というランナーからのお言葉も頂いてあります。また、毎回多くの基地内ボランティアにもご協力いただいており、一緒に大会を盛り上げていただいているところがとてもすばらしいと思います」とコメントしました。

オープニングセレモニーに出席した第18任務支援群ジェフリー・オルマン大佐は、「基地のゲートを開放し、ランナーの皆さんを迎えることにより、地元沖縄の人々に対する私達の感謝の気持ちを表し、地域との絆を感じる機会を得て大変うれしい」と述べました。3月1日に開かれた謝恩会には、オルマン大佐も出席しました。

(写真全て、米空軍：ダーナル・ケネディ二等軍曹撮影)



12TH ANNUAL - 2013 OKINAWA MARATHON HIGHLIGHTS

太平洋空軍音楽バンド「パシフィック・トレーンズ」来沖！ - POWER OF MUSIC -

米国空軍太平洋音楽隊 - アジアは、東京都福生市にある米空軍横田基地を拠点に活動を行っている空軍の正規の音楽隊です。重要な任務の一つとして、アメリカ空軍の音楽親善大使として国境を越えた親善活動を行い、日本を始めとする各地域の人達と友好を深めることが挙げられます。2月6日から10日まで、同音楽隊所属のバンド「パシフィック・トレーンズ」のメンバー9名が沖縄の人々との親善交流のために来沖し、県内各地で演奏を行いました。同バンド隊員は経験 才能豊富なプロのミュージシャンで、音楽大学の出身者も多く、



厳しいオーディションの末に選抜されます。中には元グレーンミラー楽団で演奏していたという経歴の隊員の紹介もありました。



沖縄ツアーの皮切りとして、6日（水）、沖縄キーストンライオンズクラブ主催の「本物のアメリカン ミュージックのタベ」と題したコンサートが那覇市ぶんかテンブス館で開催されました。男女2人のヴォーカルが、しっとりとしたナツメ口から軽快なポップまで様々なジャンルの音楽を日英両語で歌い、約250人の観客を魅了。米国空軍の音楽隊にとって、那覇市の中心部でこのような規模で演奏するのは初めてのことです。観客の中には米国の歌手が日本語の曲を完璧に歌い上げたことに感動した方や、各隊員の高い演奏技術に大変感心している方もいました。終盤、沖縄の代表曲である「芭蕉布」が流れるごとに会場全体で大合唱となりました。「芭蕉布」は今回の沖縄公演が決まってから集中して練習してきたとのことでした。コンサート終了後、「日本語の歌をみんなに上手に歌えることに驚いた」や「暗いニュースが続いているが、このような交流は継続すべき」との声も聞かれました。



その後、同バンドは北谷町のアメリカンビレッジや糸満市のいとまん道の駅などを巡演、ツアー中約1,800人の観衆に音楽を届け地域の方々と交流しました。



(写真 4点、米空軍：ブルーク・ドイル上等兵撮影)

THE PACIFIC TRENDS PRESENTS
AMERICAN MUSIC TIME
IN OKINAWA!



第18航空団広報局



航空自衛隊と空軍隊員、 日米相互理解と親善に貢献

第18航空団広報局

J A A G A A W A R D

2013年2月1日、日米エアフォース友好協会（Japan-America Air Force Goodwill Association JAAGA）主催による表彰行事及び祝賀会が航空自衛隊那覇基地にて行われました。同友好協会は、毎年、航空自衛隊那覇基地及び米空軍嘉手納基地より各1名づつ、日米合同訓練や日頃の日米友好親善に寄与した軍人を表彰しています。

2012年度は、航空自衛隊より那覇救難隊の斎木尚1曹、空軍嘉手納基地第718航空機整備中隊のロバート・ミラー先任曹長の2名が、二国間の絆を深め貢献したとして表彰を受けました。

ミラー曹長は航空自衛隊と空軍隊員との交流企画や共同訓練を調整したこと、航空自衛隊のKC-135空中給油訓練参加に関する支援を行ったこと等が評価されました。斎木1曹は、コープエンジエル（日米共同救難訓練）の訓練全般の統制と米軍との調整を行い、また日米隊員の交流活動を実施し貢献したことが認められました。

表彰式には地元地域からも代表者も出席し、米国の航空運用に励む軍人・自衛官の責任ある仕事を改めて認識し、受賞者を激励していました。自衛隊音楽隊による厳かな日米両国の国家演奏を始め、ミラー曹長にとって、海外基地駐留中、日本国自衛隊基地の中で、日々の仕事が高く評価され表彰を受けたことは貴重な体験となつたことでしょう。

第18航空団副司令官ブライアン・マクダニエル大佐は、祝辞の中で「このような交流活動や密接な係わり合いは、米国空軍と航空自衛隊の仲間意識と団結心を高めるとても重要なものです」と二人の功績を称えました。



(写真提供：航空自衛隊)